

にいがた市民大学について(参考)

1 現行の講座形式について

市民の高度で専門的な学習要求に応えるために平成6年9月に開設し、テーマ別に前期は1講座につき10回の講義形式、後期は5から10回までのゼミナール形式で実施。

※平成26年度(第20期)には講座数を7～8から現在の5講座に変更

平成30年度に募集人数を70から85人に変更

(1) 市民大学の性格

- ・ 学習意欲のある全ての新潟市民に開かれ、市民の自己教育力を高める場とする。
- ・ 多様な分野の精選された専門的な内容を系統的・継続的・実践的に学習し、その成果が市民の自主的活動につながる場とする。(自主サークル化の支援)
- ・ 時代と社会の要請に即するとともに、新潟の地域性や方向性を考慮したテーマや課題を掘り起こし、多様な学習機会を提供する場とする。

(2) 開設コースとねらい

現代の社会問題	現代社会が持つ今日的テーマについて多面的に学び考える
人間理解	人間の本質や人文科学的な事柄について学び考える
新潟学	新潟という地域を理解し、これからの新潟について学び考える
生命・自然科学	生命、自然現象や科学技術などの事柄について学び考える

(3) 期間・回数等

	期 間	回 数	学習方法	定員	受講料
前 期	6月～9月	8回～10回	講 義	85人	8,000円～ 10,000円
後 期	10月～翌2月	5回～10回	ゼミナール	20人	ゼミ回数 ×1,000円

2 受講状況や業務状況などについて

(1) 受講状況について

① 新潟学については、市民の関心が継続して高い。

H27年度「和食を知る」(市民提案) 141人、新潟150年史：その世界的位置 103人

H28年度「女性の歴史と新潟」84人、H29年度「新潟の川・潟とくらし」74人、

H30年度 開港150周年記念 開港都市に選ばれた「新潟」128人

R元年度「日本酒学への招待」139人

② 現在の社会問題に関するテーマについて関心が高い。

<こころ・健康に関するテーマ>

H29年度「思春期・青年期・成人期のこころの健康講座」90人 ほか

(2) 受講者アンケートやセンターへのご意見について（過去のアンケートから一部抜粋）

- ①系統立って学べるよう、講座の設定をしてほしい。
- ②講師の方の都合もあると思いますが、月に4回は厳しい（仕事を終えてからの参加となると…）ので、月2〜3回に日程を組んでいただけると良いと思います。特に平日の夜間のコースとなると仕事の関係で出席できない日程がどうしてもできてしまいます。出来たら10回参加したいと願っています。また前期だけでなく、後期も含めた（1年間）講座もあっても良いと思います。
- ③前期講座の中に、グループワークのような講座を組み込めないだろうか（希望者のみ）。一方的に聞くだけでなく、意見交換（参加者同士）することで、より一層理解が深まり、仲間づくりの一助になると思う。
- ④講師が「大学で講義するようにやってほしいとのことなので…」と言われた回があったが、その方向性で良いのか？と感じた。
- ⑤だんだんアカデミックになってきて、市立大学の1講座の体をなしてきた。市民大学は大学という名を付けているが、ユニバーシティでもカレッジでもない。もっと身近なものを取りあげれば良い。また、市民提案の採用を増やすべきだ。
- ⑥少し前NHKラジオ第2で「老前整理」について放送されていました。たいへん興味深かったです。こんな感じの衣食住など身近なテーマであり難しくない分野の講座を受けてみたいです。
- ⑦一般市民に対する講演にも関わらず、専門的な内容になっているところが良かった。この部分「遠慮せずに」やっていただきたい。
- ⑧これまでのような一般人を対象にしたものを主体にすべきだが、それに加えてもう少しレベルの高いもの（現在それに関連する仕事についている人が更に知識を深める、あるいはその道を目指す人にも役立つもの）もあっても良いのではないのでしょうか。
- ⑨昼間の講義があるとよいのではないか。
- ⑩勤務や子育てで10回の講義は難しい。
- ⑪講座の配布資料について、充実している回と不足している回があり、充実した資料に基づいた講座を期待する。（全講座複数あり）
- ⑫プレゼン力も講師の力量の一つ。知識だけなら図書やネットで得ることもできるが、大学ならではの聴講者を引き込むような話をしてほしい。
- ⑬すばらしい講師陣とふだん本やネットなどでは聞けないお話を聞くことができ、たいへん有意義な講座でした。質問時間がもう少しあったらよかった。少しテーマが広くなりすぎている感じがした。